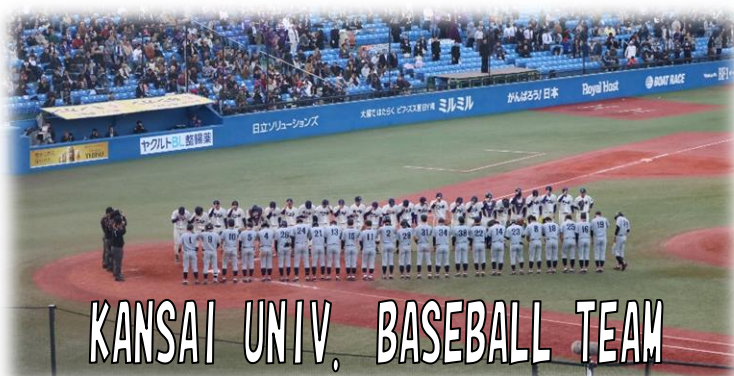




TOPICS

- ・新チーム始動！
- ・神宮大会への軌跡
- ・“ささえ”となった選手たち
- ・新グラウンド完成記念イベント
- ・野球部納会・優勝祝賀会
- ・野球教室 in 滋賀
- 特別企画 ○
『野球審判を知る』
- ・4年生のご父母の皆様へ
- ・編集後記



新チーム始動！

～悲願の全国制覇～

新チームの幹部が以下のように決定いたしました。

- 主 将 ・ 久米 健夫 (人間3・大阪桐蔭)
副 将 ・ 阪本 将太 (法3・智辯和歌山)
副 将 ・ 阪本 大樹 (経3・履正社)
主 務 ・ 玉木 怜人 (経3・北稜)
学生コーチ ・ 村田銀二郎 (人間3・門司学園)
学生コーチ ・ 安田 将也 (経3・岐阜東)



左から、安田、阪本大、久米、阪本将、玉木、村田

11月23日(水・祝)、全体ミーティングにて新幹部が発表されました。この学年は2度の神宮大会を経験し、勝つ喜び・負ける悔しさを味わっています。しかし、まだ「全国制覇」の喜びは経験していません。今回の神宮大会では明治大学を相手に悔しい敗戦を喫しました。新チーム最初となるこの全体ミーティングで「関大野球部を日本一にすること」を誓い、現在チームは冬の寒さにも負けず、毎日朝から晩まで練習に励んでいます。

捕手としてこれまでもチームを引っ張ってきた久米を筆頭に、今年こそ全国大会での勝利、そして「全国制覇」を達成するべく、この一年を戦っていきたいと思います！皆様の温かいご声援をよろしくお願いいたします。

主将・久米 健夫

今回、神宮大会で明治大学に悔しい敗戦を喫したことで、「絶対に全国の舞台で優勝する」という強い気持ちがチーム全体に生まれました。

私たちの目標はリーグ優勝ではなく「全国制覇」です。並大抵の努力ではこの目標を達成することが出来ないとわかっているからこそ、全員が必死になって取り組んでいます。そして野球だけではなく、私生活から細かい所にまで気を配り、関大野球部全員で「全国制覇」を掴み取りたいと思いますので、皆様の熱いご声援を、よろしくお願いいたします。



副将・阪本 将太

昨季は2年ぶりに神宮大会へ出場したものの初戦で敗北し、全員が悔しさと力不足を痛感しました。しかし、この経験から得たものを活かし、力をつけ、練習から妥協しないチームにしていきたいと思います。ご声援よろしくお願いいたします。



副将・阪本 大樹

先輩方と共に2度、神宮大会に出場することができました。この時のメンバーも数多く残り、力のある選手もたくさんいるので、この経験を活かし、選手たちをまとめて「全国制覇できるチーム」を目指して全力で取り組みます！



神宮大会への軌跡

※写真提供：関大スポーツ編集局

秋季リーグ戦優勝、関西地区代表の座を懸けた戦いへ

秋季リーグ戦では、同率首位となった立命館大学との優勝決定戦を制し、見事2年ぶりに優勝を掴み取りました！
自力優勝が消滅してもなお、ベンチとスタンドが一体となった全員野球で決して諦めることなく、奇跡の大逆転優勝。



関西の強豪校と戦い、第一代表の座を勝ち取る

関西地区代表決定戦は、各連盟の優勝校同士が激突する厳しい戦いです。3勝が絶対条件の中、順調に勝ち進んだ関大は決勝、タイブレーク方式での延長戦を制し見事勝利。第一代表の座を勝ち取り、神宮への道を切り拓きました。



第47回明治神宮野球大会

開会式では主将・松山（総情4・PL学園）が選手宣誓を行い、「強い想いを一球・一打席に込めて全力で戦い抜くことを誓います」と述べました。



試合当日はたくさんの方々に球場にお越しいただき、本当にありがとうございました。皆様のご声援があり、関大野球部はここまで戦うことができました。野球部は応援団と共に協力し、関大の魂のパワーで日本一のスタンドを作ることを目指してきました。再び全国大会の舞台に立てるよう、部員一同さらに練習に励んでまいりますので、関大野球部により一層のご声援を、よろしくお願いいたします！

そして迎えた、強豪・明治大学との対戦。序盤に4点を先取され、好投手を相手に関大打線は苦戦します。7回ようやく1点を返し、継投した投手陣は追加点を与えず最終回へ。二死満塁と一打サヨナラ場面を作るも反撃ならず。悔しさの残る敗北となり、同時に力量の差や課題を痛感する結果となりました。



“ささえ”となった選手たち ～ 影の HERO ～

戦っているのは試合に出場している選手だけではありません！相手チームの戦力分析、スタンドからの熱い応援、それも野球部の選手たちの大切な役割です。彼らの努力無くして野球部の勝利はありません。今回は、関大野球部の一員として勝利のために様々な面でチームの“ささえ”となった選手たちとそのストーリーをご紹介します。

学生コーチ：森島 貴文（文4・大阪桐蔭）

神宮大会で明治大学に敗れた後、球場前で4年生にとっては最後となる全体ミーティングが行われた。早瀬監督から始まり、森島の順番になった。森島といえば大阪桐蔭高校出身で、春・夏全国制覇した際のメンバーとして活躍。関西大学でも2年秋の新人戦で優勝、最優秀選手として表彰された人物だ。

森島は最後の一年を振り返り、「個性の強いこの学年をまとめるのは自分しかない」と感じ、学生コーチになることを申し出た。

そして、同級生に対する思い、メンバーを選択する時の苦悩をありのままに熱く語った。終了後は自然に大きな拍手が湧きおこり、涙を誘った。

潤滑的な存在で、個性の強いこのチームに摩擦が生じなかったのは森島の努力に他ならない。選手の精神的な“ささえ”として大活躍。彼の存在無くして神宮大会出場はなかったと断言できる。



偵察班：浅田 健太（社安4・京都花園）、河内 陸（総情4・五條）、 喜久田 賢哉（商4・西宮北）、坂田 佳右（経4・関大一）

多田（人間2・明德義塾）は躊躇なく走った。関西地区代表決定戦 対大阪商業大学の1回裏二死一、二塁で打者は若泉（人間3・塔南）。2球目で三盗に成功し、後続の連続適時打で2点を先制。試合の流れを大きく掴んだ。



多田は「偵察班から、投手は走者を二塁に置いた時、走者を見た後すぐに投球に入る癖がある、と聞いていた。その情報を100%信じて迷いなくスタートをきった。」と語った。

このプレーに代表されるように、偵察班からのデータは選手たちの積極性を引き出す“ささえ”となりチームの勝利に大きく貢献した。

休日も惜しむことなく他連盟の試合を観戦、データを集めた浅田・河内・喜久田・坂田の偵察班4名に心から感謝する。

井上 大輔（商4・東海大仰星）

いつも素晴らしいと評価されるのは、関大の応援風景である。応援団の指揮のもと、部員も一丸となって声援を送り続ける。その中心は井上である。彼は東海大仰星高校で主将を務めた人物でもある。これまでベンチ入りの経験が無く、最後の秋に賭ける並々ならぬ思いと努力はみんなが認めるものであった。しかし、残念ながら開幕ベンチ入りの思いは叶わなかった。



「競争から協調へ。」悔しさをエネルギーに変え、彼は応援という形でチームに貢献しようと考え、開幕2日前に、ベンチに入ることができなかった選手を集め、決起集会を行ったのである。

グラウンドから見るスタンドの選手たちの光景。

試合前、正しい姿勢と大きな声で学歌を歌う光景に、どれ程勇気づけられ“ささえ”となったことか。試合後、逍遙歌をカー杯歌う光景に、どれ程学生スポーツの素晴らしさを教えられたことか。

そして、その中心にはいつも井上大輔がいた。

※詳しい試合結果・写真などは、関西大学体育会野球部公式HP・facebookに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

新グラウンド完成記念イベント

10月16日(日)にKAISERS BASEBALL FIELDにおいて、OB・OGの方々への初のお披露目となるグラウンド完成記念イベントが行われました。セレモニーや昼食会では新グラウンドを前に終始和やかな様子でした。OB 紅白戦は、山口アドバイザースタッフの始球式で幕を開け、早瀬監督や中本コーチも試合に出場。たくさんの皆様に参加していただき、大いに盛り上がりました！



午後からはオープン戦見学も行われ、OB・OGの皆様の期待を前に現役部員は一層身の引き締まる思いになったようです。

このグラウンドで思う存分練習に励み、「全国制覇」という形で、応援してくださる皆様に恩返しができれば、と思います。

野球部納会・優勝祝賀会

上：木村前会長と豊島会長
下：松山前主将と久米主将

12月6日(火)、大阪新阪急ホテルにて野球部納会を兼ねた優勝祝賀会が行われました。OB・OG会の皆様に参加していただいた優勝祝賀会では、この秋チームを引っ張った4年生たちが感謝の気持ちを、新チームの幹部や表彰選手がこれからの意気込みを述べました。また、『“ささえ”となった選手たち ~影の HERO~』でも紹介しました、チームを支えた4年生も登壇し、全国大会での勝利、「全国制覇」の絶対目標を後輩たちにしっかりと託しました。たくさんの野球部 OB・OGの皆様にお越しいただき、盛大な会となりました。たくさんの激励のお言葉をいただき、ありがとうございました。そして引き続き行われた野球部納会では、引退した4年生との楽しいひと時を過ごしました。



田尻部長



遠歌斉唱の様子



左から、森島・土屋(経4・上宮太子)
・浅田・坂田・喜久田・河内陸・井上

野球教室 in 滋賀

12月10日(土)、滋賀県の草津グリーンスタジアムにて、関西大学校友会滋賀県支部主催の野球教室が行われました。野球部からは12名が講師として参加し、野球少年約80名を対象に指導しました。1年生から6年生まで様々なレベルに見合った指導をするのは簡単なことではありませんが、選手たちも得るものがたくさんあったことと思います。今後も積極的に開催し、地域に愛されるチーム作りをしていきたいと思っています。



「野球審判を知る」

—野球に関わる全ての方々に伝えたいこと—

野球の試合で、選手たちと同様にグラウンドに立つ審判員。

我々の所属している関西学生野球連盟では、各大学の OB の方々が審判委員としてリーグ戦等の試合の運営にご尽力いただいております。関西大学からは委員長の桂 等氏（S43 入学）を筆頭に、現在 10 名の OB の方々に審判委員としてお力添えをいただいております。

今回は、その中から、窪田氏・石川氏・尾崎氏に「審判委員としての貴重な経験や学生野球への想い」を語っていただきました。

この企画にて、審判委員の魅力に触れていただき、将来に渡って OB の方々や現役部員の中から、審判委員として関西大学野球部と学生野球の発展を支えていただける方が出てこれたら幸甚に存じます。

この企画を作成するにあたり、ご協力いただきました関係者の方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。

◇窪田 哲之 氏(昭和 50 年入学)

～Profile～

経 歴： 関大一高/関大（三塁手）、昭和 53 年秋季リーグ戦・ベストナイン賞

審 判 歴： 大阪府高等学校野球連盟 32 年、日本高等学校野球連盟 21 年、
関西学生野球連盟 29 年

代表的な試合：第 95 回全国高等学校野球選手権大会 決勝（球審）

第 85 回記念選抜高等学校野球大会 決勝（球審）

第 94 回全国高等学校野球選手権大阪大会 決勝（球審）



平成 28 年度秋季リーグ戦、関西地区代表決定戦優勝おめでとうございます。また 1 つ、関大野球部の歴史に輝かしいページが増えました。今秋のリーグ戦は終盤、優勝争いが大混戦となりいずれの試合も接戦に次ぐ接戦で、最後はプレーオフでの決着で終わりました。また、関西地区代表決定戦ではタイブレークの末、明治神宮大会の第一代表を勝ち取ってくれました。何度も、もうダメかと諦めかけた局面から粘り強く巻き返しての戦いは見事でした。

—審判員の使命と醍醐味

このリーグ戦最終節の関関・同立戦 6 試合は全ての試合に優勝が懸かり、緊迫した内容の濃い試合が続きました。必然的に際どいプレーも数多く発生し、担当した審判委員は高い集中力でそれらのプレーに「正確な判定」を期し対応しました。言うまでもありませんが、試合を公平かつ正確に進める上で審判員の役割は大変重要です。審判員の責務は試合で「正確な判定」をすること、「円滑な進行」をすること、「的確な規則適用」をすることなどが挙げられます。この重要な責務を背負い、桂審判委員長を筆頭に関大は現在 10 名の野球部 OB が審判委員の役割を担っています。しかしながら月日の経過と共に高齢化し、40 歳代以下は 2 名のみという現状です。

今秋の選手たちの活躍のみならず、関大野球部は過去にも偉大な先輩方のご活躍で、2 度の全日本大学野球選手権大会制覇をはじめとする輝かしい成績を収めてきました。それと共に約 100 年に亘る野球隆盛の歴史に、野球部 OB が深くかかわってこられたことも忘れてはなりません。特に関西の野球界を総合的な面でリードしてきた歴史と功績は、良き伝統として今後も継承していかなければなりません。審判の面でも永年、野球部 OB が甲子園大会や社会人野球を支え続け、現在に至っています。これらこそが他校にはない関大野球部の誇りであり、強みであると思います。

数ある「審判をする素晴らしさ」の一つとして、今秋に展開されたような「白熱した大事な試合に関わること」を挙げたいと思います。理由は、普段の生活ではなかなか味わえない緊張感の中に身を置き、あらゆるプレーに的確に対応しなければならない真剣味を体感できるからです。選手同様、体調管理に十分注意し試合に臨まなければなりませんし、フィールドに立つと選手時代とはまた違った野球観が得られると思います。野球に対する見方、考え方が味わい深いものになるはずです。

—大学野球界を支えるために

スタンド観戦やテレビ中継、お子さんの試合応援でクロスプレーの場面を見て、「しっかり見やんかあ！！」と熱くなっている方、息子さんからルールについて質問され正しく返答できなかった方、人生を今以上に充実させ豊かなものにするために審判員の道を歩んでみませんか？幸いなことに関大野球部 OB の審判技術指導者は全国的にも有名で、実績もあり、他の野球部 OB と比べ層が厚く、身近に優れた指導を受けることができます。永年に亘り関西のアマチュア野球に深く関わってきた関大野球部。その後輩 OB 諸君、良き伝統を繋げよう。大好きな野球ともう一度関わり、フィールドに立って、緊張感の中に身を置きませんか？

◇石川 基之 氏(昭和 57 年入学)

～Profile～

経 歴： 大阪府立花園高/関大（主将・捕手）/いすゞ自動車

審 判 歴： 大阪府高等学校野球連盟 14 年、関西学生野球連盟 14 年

代表的な試合：第 97 回全国高等学校野球選手権大阪大会 準々決勝（球審）

第 98 回全国高等学校野球選手権大阪大会 準決勝（球審）

平成 27 年春季大阪府大会 決勝（球審）



—「審判を経験して」

はじめに、この度このような機会をご提供いただきました事、心より感謝申し上げます。

私は、中学から野球を始め、高校・大学・社会人までプレーをしましたが、今、審判を経験できたからこそ、現役プレーヤー時代には気付けなかった多くの事に気づき、また多くの事を感じています。

まず、「ベースボールというゲーム」に原点から触れることにより、野球の楽しみ方、面白さを知ることが出来ました。例えば、「打者の一塁ベースへの全力疾走」を取り上げてみます。野球経験者であれば誰もが教わってきたことだと思いますが、なかなか実践できていないのが現状です。私も選手時代はそうでした。しかしながら、審判をさせていただくようになり、規則書（ルールブック）に目を通す機会が多くなりました。その中の“打者アウト”の項目に「打者がフェアボールを打った後、一塁に触れる前に、その身体または一塁に触球された場合」と記載されています。言い換えれば、打者走者が先に一塁に触れればセーフとなるのです。打撃（打球）の良い悪いとは無関係に、自身の走力と相手野手との力と技の勝負を楽しむチャンスがあるということなのです。ゲームの中でよく目にする、打ち損ないの打球の時の一塁への緩慢な走塁は、すごく残念な思いで見えています。

似たようなケースに、四球を得た打者が、手袋やガードを外しながら歩くように一塁へ進む光景もよく目にします。好ましい光景ではありません。四球を得た打者は、一塁への安全進塁権が与えられるものの、ボールデッドではなく、安打した時と同じなのです。

もう一つ、規則書（ルールブック）に目を通して気付いたことがあります。それは、禁止事項（行ってはいけない行為）についてです。私が現役プレーヤー時代に指導者からよく言われたのは、「ボール球を振ってはいけない」「フライ（飛球）を打ってはいけない」「エラーをしてはいけない」等で、自身でもそう思いながらプレーをしていました。しかし、規則書にはそのような記載は一切無いのです。記載されているのは、攻撃側・守備側に関わらず、相手に対する妨害行為、相手を惑わす行為、スポーツ精神に反する行為、がほとんどです。

以上のことだけをとってみても、「ベースボールというゲーム」を原点から理解することで、プレーやマナーのレベルアップにも大きく影響するものであると思っています。審判という立場・位置で学生野球に携わらせていただく中で、学生野球全体において、グラウンドでの動きやマナーについては、少し物足りなさを感じていますと共に、今のままでは良くないとも感じています。この先、関西大学体育会野球部が学生野球を牽引していく為にも、卒業生の中から多くの方々が、様々な立場で、学生野球に携わっていただくことが必要であると感じます。

最後に、私は40歳から審判を始めて今年で14年と、経験も浅く審判の魅力や奥深さ、難しさはまだまだ分かりませんが、強いて言うならば、「見る位置や角度、距離を少し変えるだけで、全く見えないものがはっきり見えたり、はっきり見えるものが全く見えない事がある」ということです。このことは、審判だけに限らず、社会人としても企業人としても大いに役立っています。判定や判断をするにあたって、見る位置、立つ位置によって見え方や説得力が大きく変わるということです。

審判の魅力や面白さ、難しさを伝えることは出来ませんでしたが、審判として学生野球（高校野球・大学野球）に携わり、多くの方々に野球の素晴らしさに接してほしいと願います。

◇尾崎 泰輔 氏(昭和60年入学)

～Profile～

経 歴： 関大一高（主将・一塁手）/関大（主務）

審 判 歴： 大阪府高等学校野球連盟22年、日本高等学校野球連盟8年、
関西学生野球連盟24年

代表的な試合：第94回全国高等学校野球選手権大会 準々決勝（球審）

第98回全国高等学校野球選手権大会 決勝（三塁審）

第87・90・92回全国高等学校野球選手権大阪大会 決勝（二塁審）

第98回全国高等学校野球選手権大阪大会 決勝（球審）



—『アマチュア野球審判考』

私は、高校野球の指導者であった亡父の影響を受け、幼少の頃から大学まで野球に携わってきました。

「自分を育てて貰ったグラウンドに恩返しを！」という先輩からのお声掛けにより、大学卒業後、約25年間関西学生野球連盟・大阪府高等学校野球連盟で審判委員を務め、2009年の第91回全国高等学校野球選手権大会から、日本高等学校野球連盟より委嘱を受け、審判委員として春・夏の甲子園大会のグラウンドにも立たせて貰っており、例年3月～11月の間は、休日のほとんどの時間をグラウンドで過ごしています。

関西大学体育会野球部の先輩方は、卒業後もプロ野球界や少年野球から社会人野球までのアマチュア野球の指導者等各所でご活躍されておられます。

審判委員としてご活躍された方も多く、関西学生野球連盟の審判委員長、日本高校野球連盟の審判規則委員長等の要職も歴任されておられます。

実際に審判委員としてグラウンドに立たせていただき、如何に多くの人々がその運営を支えて下さっているかを理解でき、学生時代に気付いて、もっと感謝の気持ちを持つべきだったと反省しております。

年を重ねるごとに「多くの先輩たちが繋いできたこの素晴らしい高校野球・学生野球を後世に繋げていかなくては」という使命感が強くなり、現在まで続いてきました。

普段仕事で心身ともに疲労することも多いですが、休日に「野球」に携わることで“自分の源流”に戻れ、選手の皆さんからエネルギーを貰って、自分をリセットすることができる有難い機会でもあります。

ただ、仕事・家庭と審判委員としての活動の並立は、家族の理解があつてこそ両立できるものであり、ずっと理解し続けてくれている妻には感謝の気持ちで一杯です。

長年の審判委員生活の中で、印象に残る試合・思い出深い試合は沢山あります。強豪校・有名選手が出場する注目試合、優勝を決する試合にも数多く立たせていただきました。

しかしながら、経験を重ねるにつれ、どのような試合でも全ての試合にその両チームの部員・指導者・保護者の方々・学校関係者・大会運営者等々、多くの関係者の色々な“想い”が込められており、その“想い”の沢山詰まった試合を預かって、グラウンド上で決着をつける場に立ち会う、という審判委員の責務の大きさが身に染みるようになり、試合の前日位からは極度の緊張感に苛まれます。

それ故に、普段の心身のトレーニング・体調維持や規則の勉強等の自己啓発、審判研修会での技術の習得等、厳しい面もありますが、自身が務めた試合が、無事に大過なく試合終了した際の満足感、清々しさは、言葉では言い尽くせぬ格別のものがあります。

そして何よりもこの歳になっても野球に携わり、選手たちの大切な時間を共有できる幸せに感謝する日々です。

4年生のご父母の皆様へ

4年生のご父母の皆様、4年間に渡り、温かいご声援をいただき誠にありがとうございました。

秋季リーグ戦・代表決定戦では、845 名のご父母・関係者の方々に球場にお越しいただきました。この来場者数は関西学生野球連盟の六大学の中で群を抜いて 1 位ということで、感謝の気持ちでいっぱいです。そして神宮大会でも、遠方にも関わらず 127 名の方々に足をお運びいただきました。

特筆すべきは、ベンチに入っていない部員のご父母の方々も多数応援にかけつけてくださったことです。メンバー・メンバー外に関わらず、部員、そしてご父母の皆様が一体となり、「オール関大」として戦えたことが神宮大会出場に繋がったと実感しています。そして現在、新チームが発足しましたが、より多くの方々に応援に来ていただけるような魅力のあるチームを目指して参ります。

改めまして、4年間本当にありがとうございました。心より厚く御礼申し上げます。



編集後記

今回の奪首×Dash 第 27 号はいかがでしたか？

今回は試合結果のご報告に加え、関大OBの審判員の方々にご協力いただき、『野球審判を知る』という特別企画を作成いたしました。野球に欠かすことのできない審判員の方々の目線から、野球・審判の素晴らしさを感じていただければ幸いです。

秋季リーグ戦・代表決定戦・そして神宮大会では、4年生たちに負けず、新チームを担う3年生以下の選手たちの

活躍が多く見られました！そしてその新チームでは、神宮大会での敗戦の悔しさを忘れず、引退した4年生から託された「全国制覇」の絶対目標を果たすために、熱心に練習に取り組んでいます。全国大会への出場で満足するのではなく、全国大会で勝てるチームになるために日々奮闘しておりますので、変わらぬご声援をよろしくお願いいたします。

これからは、高槻グラウンドでの冬季合宿、高知県安芸市での春季キャンプ、そして千里山の KAISERS BASEBALL FIELD でも春季オープン戦をたくさん行う予定です。グラウンドには観覧席もございますので、お気軽にお越しください！

左から、田村（政策3・関大北陽）・西尾（文3・東洋女子）
玉木（経3・北稜）・吉岡（人間3・検見川）

